

アルミニウム製庇  
RSバイザー  
取扱説明書

お客様へ

製品をいつまでも安全に、そして美しく使って頂くために、この説明書を必ずお読み頂き、お手元に保管くださいますよう、お願い申し上げます。

 **注 意**

製品の安全を確保するために、以下の点をお守りください。

- ・ 転落の恐れがありますので、庇に乗ったりぶらさがったりしないでください。
- ・ 庇が破損する恐れがありますので、積雪80cmを超える前に必ず雪降ろしを行ってください。

# ⚠ 注 意

いつまでも製品を美しく保つために、以下の点をお守りください。

アルミニウムは耐蝕性の良い素材ですが、排気ガス、パイ煙、砂、泥などが表面に付着したまま長期間放置しますと、化学的反応や電気化学反応などが表面を侵し、腐食を発生することもあります。定期的なメンテナンスを行うことをお勧めします。

## かるい汚れの場合

水で濡らした柔らかい布やスポンジなどで汚れを拭き、その後、水をかけて汚れを流してください。手の届かない場所はモップ等を使用し庇には乗らないようにしてください。

## 落ちにくい汚れの場合

中性洗剤をぬるま湯でうすめ、柔らかい布やスポンジを使用し汚れを落とします。そのあと洗剤が残らないように、十分水洗いをしてください。洗剤が残っていると腐食の原因となります。

《清掃の目安》

立 地 条 件	清 掃 回 数
臨海工場地帯	1 ～ 2 回 / 年
海岸・工業地帯	1 回 / 年
市 街 地	0.5 ～ 1 回 / 年
田 園 地 帯	0.5 回 / 年

# アルミニウム製 庇

(RSバイザー RS-F・FT型)

## 施工要領

確実な施工を行い、製品の安全を確保するため、施工前にこの「施工要領」を必ずお読みください。

### — 目 次 —

施工上の注意点	_____	1
部材名称	_____	2
アンカー取付要領	_____	2
施工手順（庇が1枚物の場合）	_____	3
施工手順（庇が複数枚割の場合）	_____	4

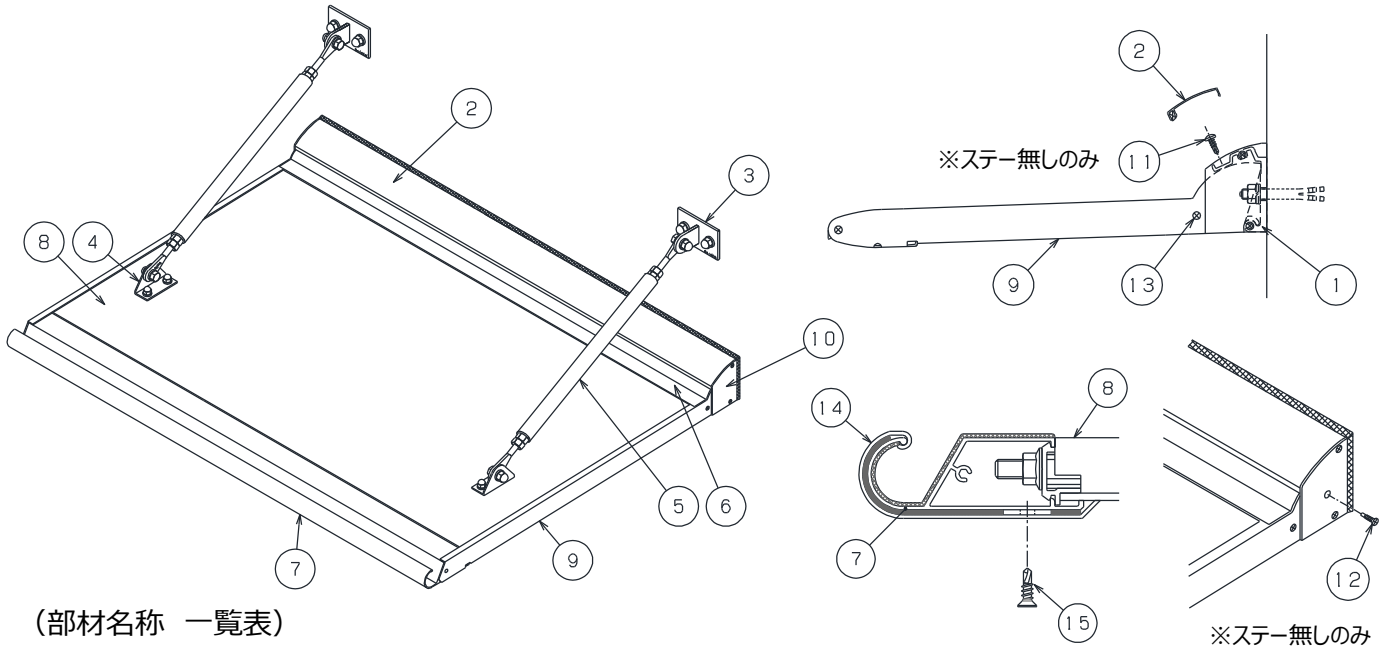


### 施工上の注意点

- 転落や破損の恐れがありますので、庇に乗ったりぶらさがったりしないでください。
- ねじやボルトは全て確実に締めてください。
- 施工後、ねじやボルトにゆるみやガタつき、その他使用上危険な箇所等がないか確認してください。
- 庇の角度は指定角度範囲内で使用してください。
- 正規の施工方法以外での取付けや、改造等を行わないでください。

※ 改良のため、予告なく製品の一部を変更する場合があります。御了承ください。

## ■ 部材名称



(部材名称 一覧表)

番号	部 材 名 称	備 考
①	壁軸材	
②	壁軸カバー材	
③	固定用ステー取付ブラケット (壁側)	横型 ※ステー付きのみ
④	固定用ステー取付ブラケット (庇本体側)	※ステー付きのみ ※出幅 1001 mmからは壁側と同じ形状のものが付属
⑤	固定用ステー	※ステー付きのみ
⑥	パネル軸材	
⑦	先端見切材	F 型 (樋無し R 型)、FT 型 (樋付き丸型)、FT2 型 (樋付き角型)
⑧	庇本体	
⑨	庇本体小口蓋	
⑩	壁軸材小口蓋	壁軸材に取付け済
⑪	庇本体固定ねじ①	十字穴付きなべドリルねじ φ5×16 ※ステー無しのみ
⑫	庇本体固定ねじ②	十字穴付き皿ドリルねじ φ4×13 ※ステー無しのみ
⑬	庇本体小口蓋 取付ねじ	十字穴付き皿タップンねじ φ4×16 2種ガイド付き
⑭	先端見切ジョイント材	FT・FT2 型のみ
⑮	先端見切ジョイント材 取付ねじ	十字穴付き皿ドリルねじ φ4×13

※W 幅が 4000 mm を超える場合は、先端見切材にジョイント材が追加されます。詳しい取付方法は 6 ページを参照してください。

## ■ アンカー取付要領

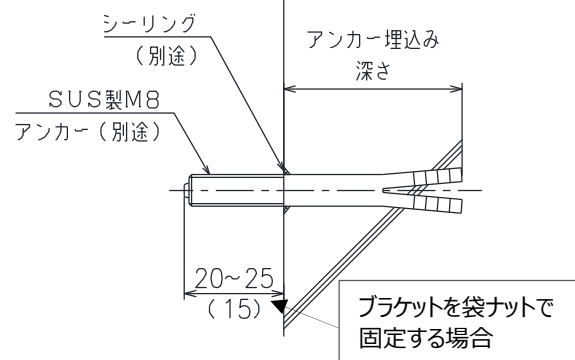
アンカーは右図のように取付面から **20~25 mm** 突き出すようにしてください。

(※ブラケットを袋ナットで固定する場合は 15 mm)

※アンカーの埋込み深さは使用するアンカーの規定寸法を守って取付けてください。

※内部への浸水防止のためにアンカーの周りに防水シール (別途) を施してください。

※あと施工アンカーによる施工は RC 躯体のみです。



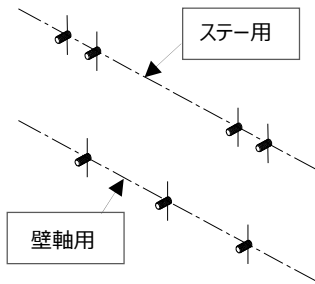
※アンカー取付位置については、別紙図面にてご確認ください。

## ■ 施工手順（庇が1枚物の場合）

1

アンカー図に基づき墨出しを行いアンカー（M8・別途）を取付けます。

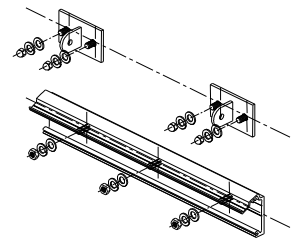
（用意するもの）  
M8 アンカー（別途）



2

壁面の出入りを調整して壁軸材・固定用ステー取付ブラケットを取付け、アンカーを締付けます。  
※水勾配を適正に確保しないと水漏れの原因になります。

（用意するもの）壁軸材、  
固定用ステー取付ブラケット

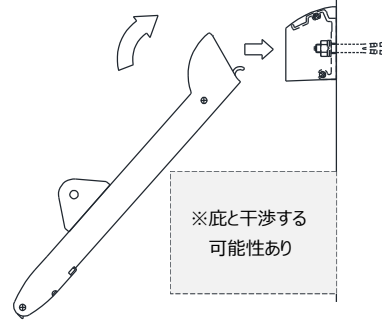


3

右図のように、庇本体を壁軸材に差込み、上方向へ回転させます。

※庇下部に物があると庇と干渉する可能性があります。  
先に庇を取付けてください。

（用意するもの）庇本体



4-1（ステー付きの場合）

固定用ステーを取り付けます。  
別紙「追加 施工要領／固定用ステー」を参照し取付けてください。

※庇本体の角度の調整範囲は、出幅 1001 mm 以上は 83°～88°です。標準設定は 88°になります。

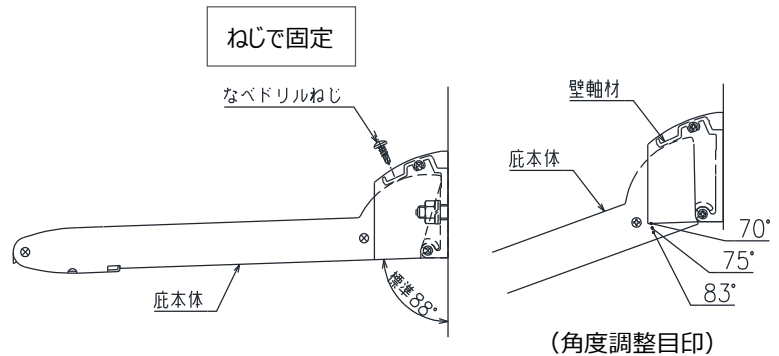
（用意するもの）固定用ステー

4-2（ステー無しの場合）

庇本体を任意の角度（70°～88°）に設置し、付属のなべドリルねじで固定します。

※庇本体の角度の調整範囲は 70°～88°です。  
標準設定は 88°になります。角度調整時には右図の目印を目安に取付けてください。

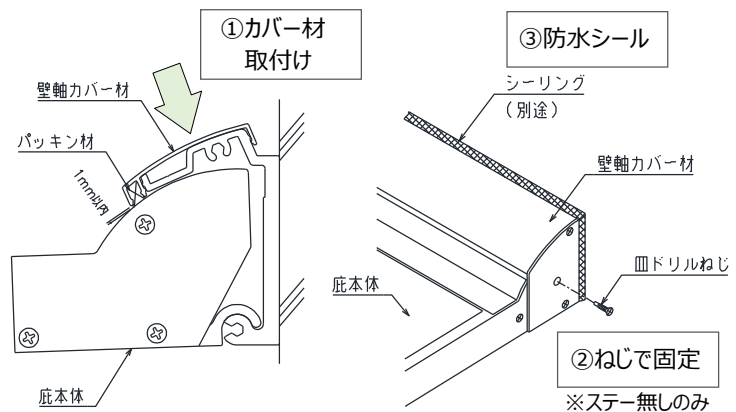
（用意するもの）庇本体、なべドリルねじ



5

- ①壁軸カバー材を取付けます。
- ②ステー無しの場合は、壁軸材小口蓋に付属の皿ドリルねじを取付けます。
- ③壁軸材上部・端部に防水シール（別途）を施します。

（用意するもの）壁軸カバー材、皿ドリルねじ



注 意

庇本体が複数枚割の場合は、壁軸カバー材を取付ける前に庇本体の目地に防水シールを施します。詳しくは次頁「**庇本体が複数枚割になる場合**」を参照してください。



注 意

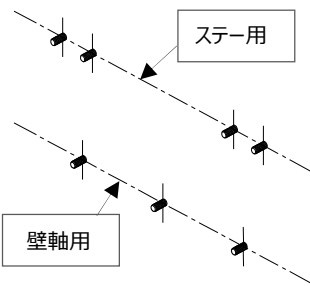
壁軸カバー材はパッキン材を先端側にして嵌合し、庇本体との隙間が 1 mm 以内になっているか確認してください。正しく嵌合されていないと水漏れの原因になります。

## ■ 施工手順（庇が複数枚割の場合）

1

アンカー図に基づき墨出しを行いアンカー（M8・別途）を取付けます。

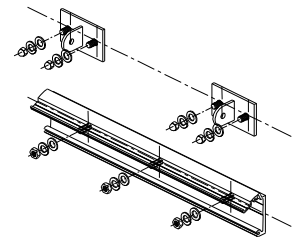
（用意するもの）  
M8 アンカー（別途）



2

壁面の出入りを調整して壁軸材・固定用ステー取付ブラケットを取付け、アンカーを締付けます。  
※水勾配を適正に確保しないと水漏れの原因になります。

（用意するもの）壁軸材、  
固定用ステー取付ブラケット



3

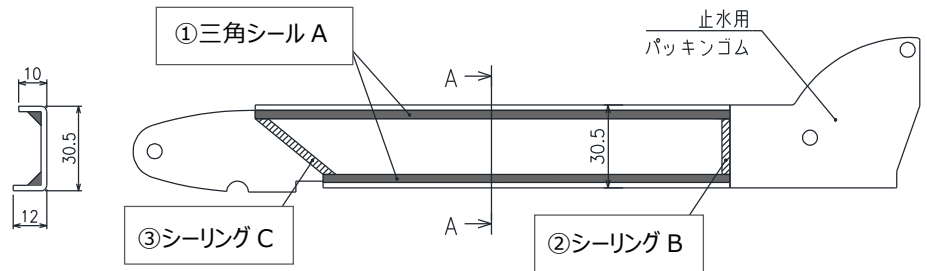
付属の庇本体小口蓋に防水シールを施します。

①右図のように小口蓋内側の隅角部に三角シール A を施します。

②止水用パッキンゴムの端部にシーリング B を施します。

③先端側にシーリング C を施します。

（用意するもの）庇本体小口蓋



【 A-A 断面図 】

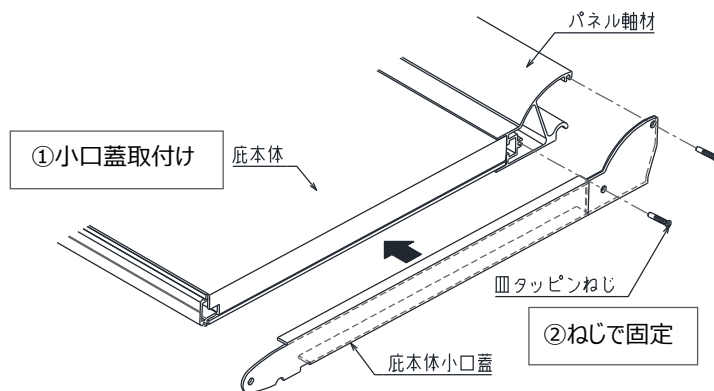
4

①両端の庇の右・左端部に庇本体小口蓋を取付けます。

②付属の皿タップピンねじで庇本体と固定します。

※防水シール後は速やかに取付けを行ってください。

（用意するもの）  
庇本体小口蓋（シール付き）

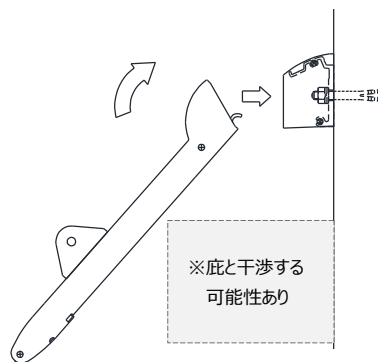


5

右図のように、庇本体を壁軸材に差込み、上方向へ回転させます。

※庇下部に物があると庇と干渉する可能性があります。  
先に庇を取付けてください。

（用意するもの）庇本体



6-1（ステー付きの場合）

固定用ステーを取り付けます。

別紙「追加 施工要領／固定用ステー」を参照し取付けてください。

※庇本体の角度の調整範囲は、出幅 1001 mm 以上は 83°～88°です。標準設定は 88°になります。

（用意するもの）固定用ステー

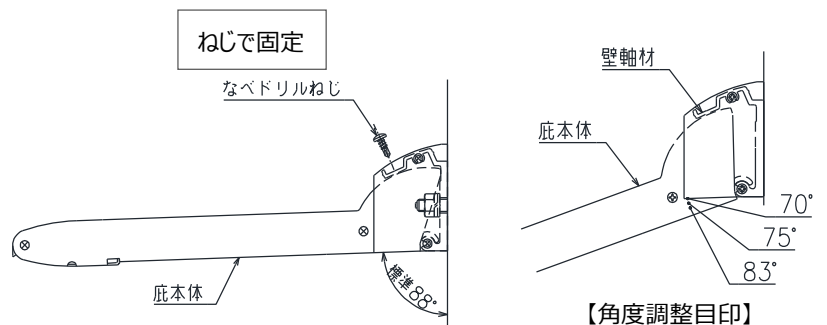
6-2（ステー無しの場合）

庇本体を任意の角度（70°～88°）に設置し、付属のなべドリルねじで固定します。

※庇本体の目地にねじ穴がくる場合は位置をずらして固定してください。

※庇本体の角度の調整範囲は 70°～88°です。標準設定は 88°になります。角度調整時には右図の目印を目安に取付けてください。

（用意するもの）庇本体、なべドリルねじ



【角度調整目印】

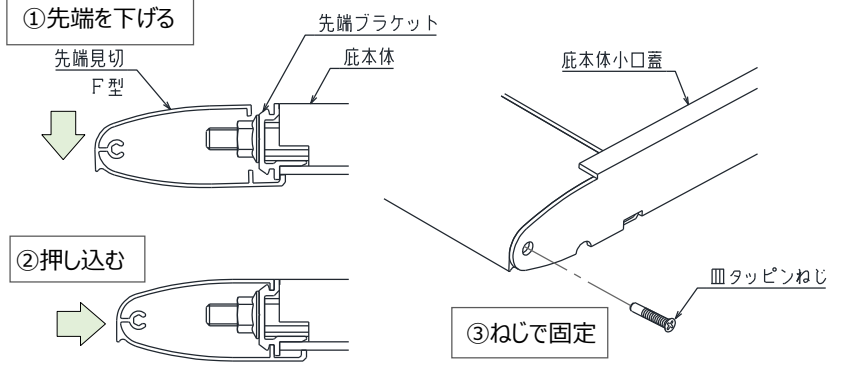
# 7

先端見切材を取付けます。

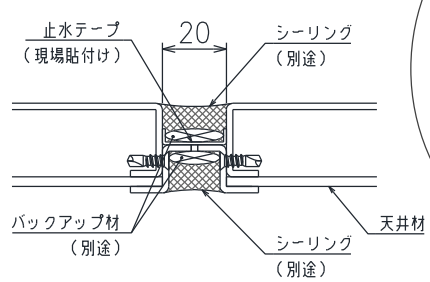
底本体を取付けた後、右図のように先端を①少し下げてから②先端ブラケットにパチンと音がするまで押し込んでください。

③手順4で取付けた小口蓋と、付属の皿タッピンねじで固定します。

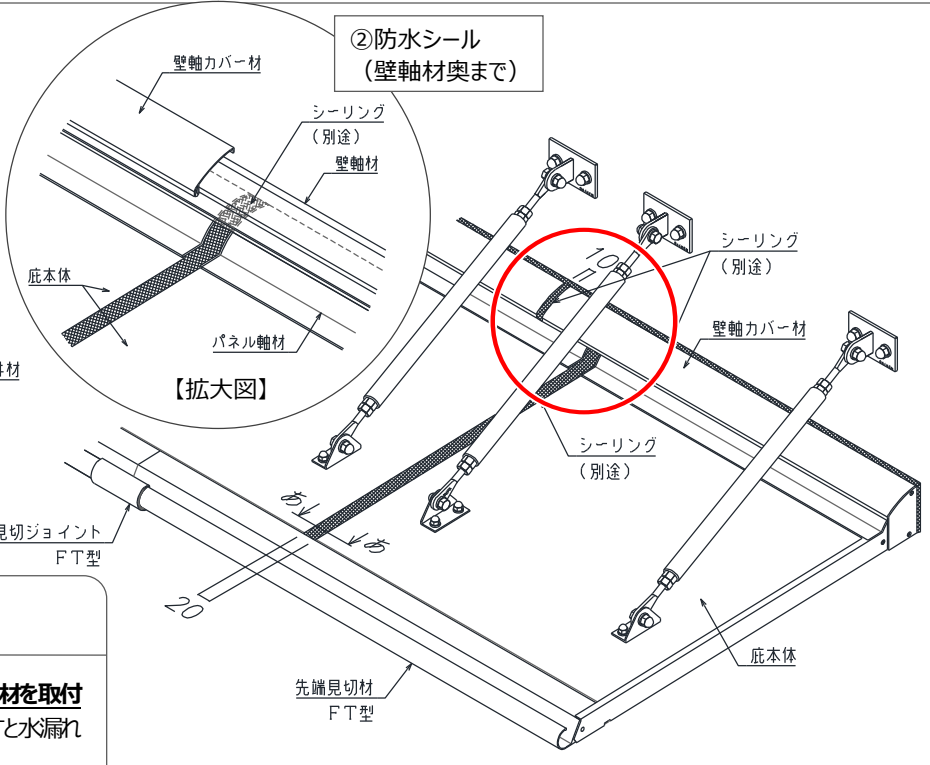
(用意するもの) 先端見切材、皿タッピンねじ



## ① 止水テープ貼付け



【あ-あ断面詳細図】



## ② 防水シール (壁軸材奥まで)



**警告**

**底本体間の防水シールは、必ず壁軸カバー材を取付ける前に行ってください。**シールが不十分ですと水漏れの原因になります。

# 8

① 底本体間に 20 mm の隙間目地を設け、付属の止水テープを貼り付けます。(上図【あ-あ断面詳細図】参照)

② 防水シールを施してください。この時、防水シールは壁軸材の奥まで充填してください。(上図【拡大図】参照)

(用意するもの) 止水テープ

# 9

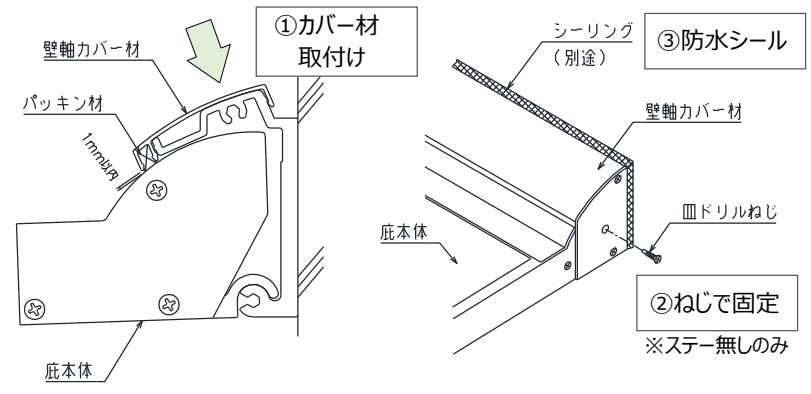
① 壁軸カバー材を取付けます。

② ステー無しの場合は、壁軸材小口蓋に付属の皿ドリルねじを取付けます。

③ 壁軸材上部・端部に防水シール (別途) を施します。

(用意するもの)

壁軸カバー材、皿ドリルねじ



**注意**

壁軸カバー材はパッキン材を先端側にして嵌合し、底本体との隙間が 1 mm 以内になっているか確認してください。正しく嵌合されていないと水漏れの原因になります。

## 【 先端見切材が 2 本以上つながる場合（FT・FT2 型） 】

### 10

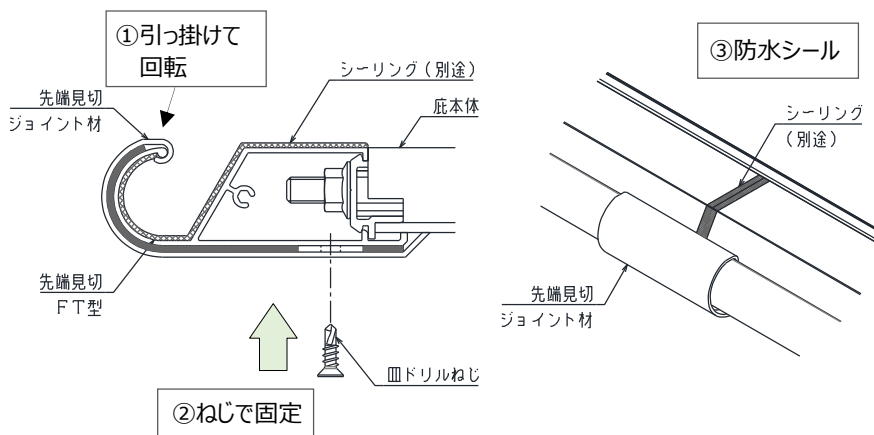
先端見切取付け後、先端見切ジョイントを取付けます。（FT・FT2 型のみ）

①ジョイント材を先端見切の R 部分に引っ掛けて回転させ、②付属の皿ドリルねじで先端見切材に取付けます。

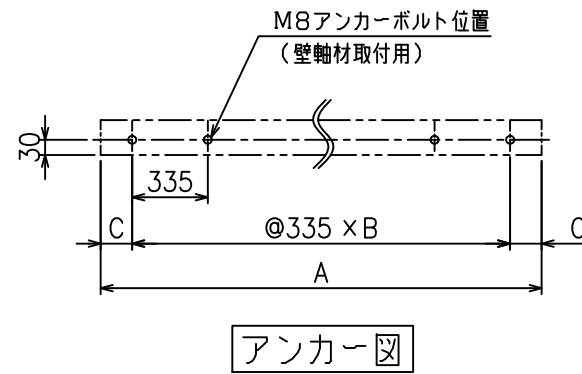
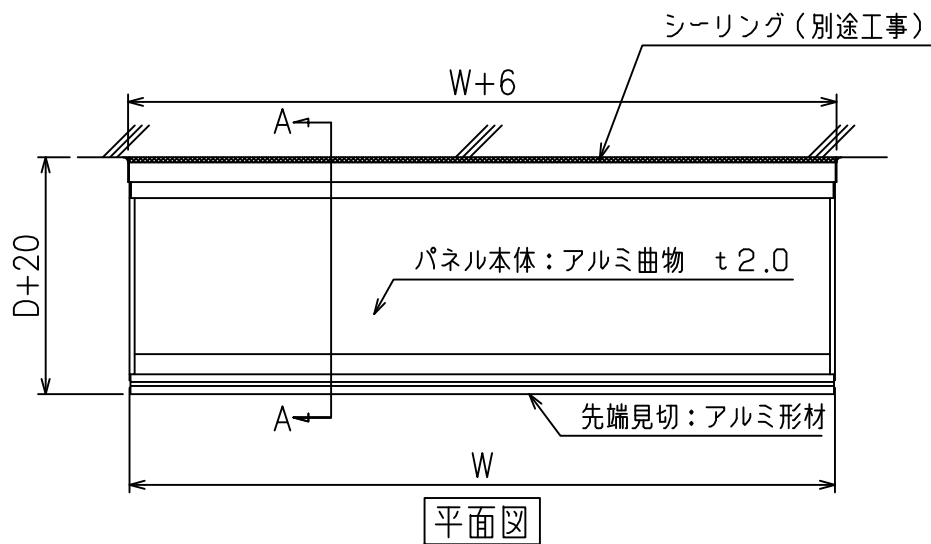
③右図のように先端見切材突き当て、上部に防水シール（別途）を施します。

（用意するもの）

先端見切ジョイント材、皿ドリルねじ





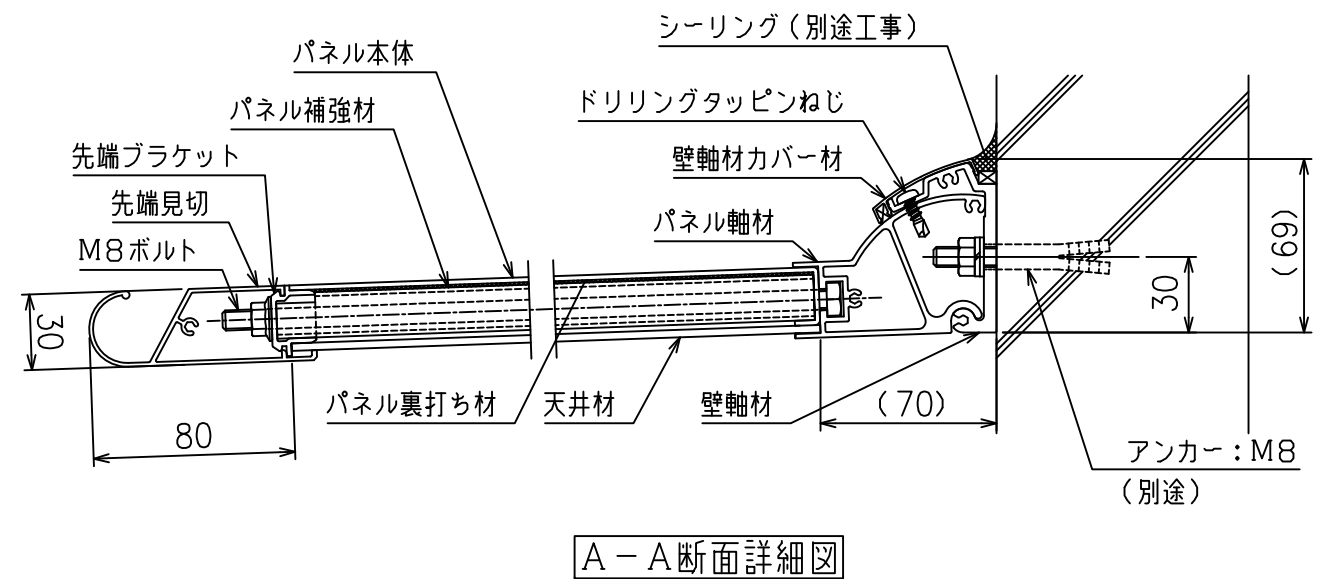
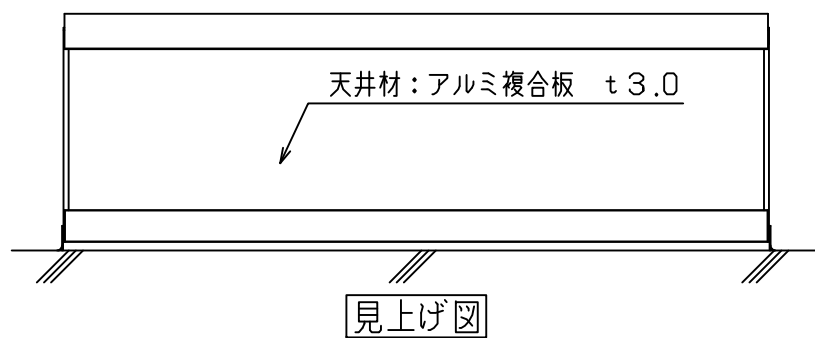
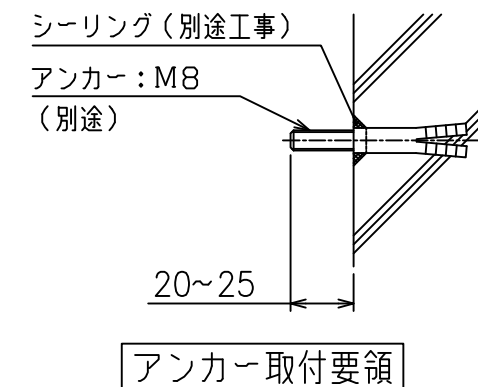
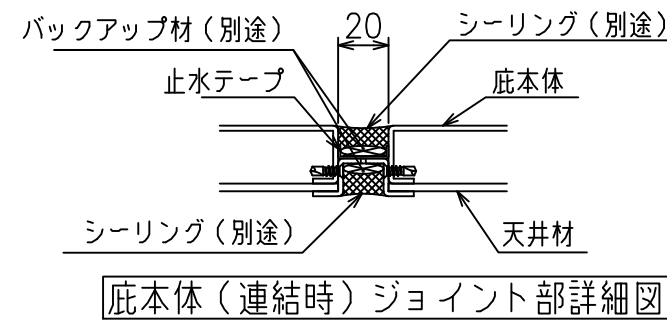
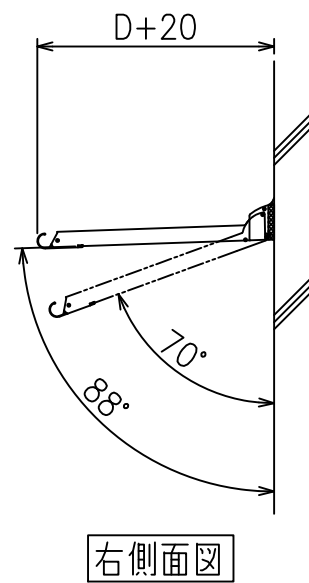
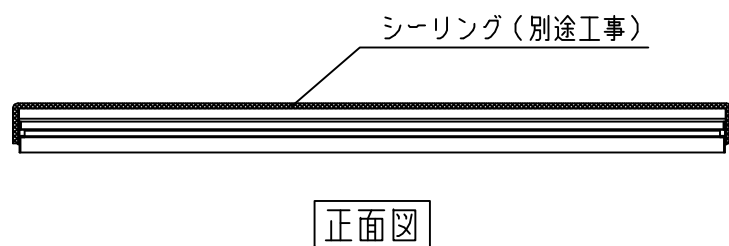


モジュール表

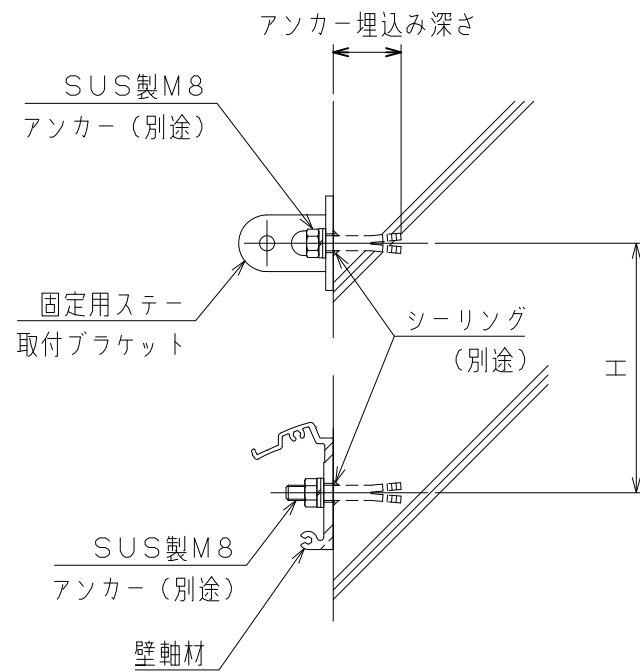
本体寸法		
D	W	割数
300	1000	1
	1200	
	1400	
	1600	
	1800	
	2000	
	2400	
450	2800	2
	3200	
	3600	
	4000	

アンカー位置モジュール表

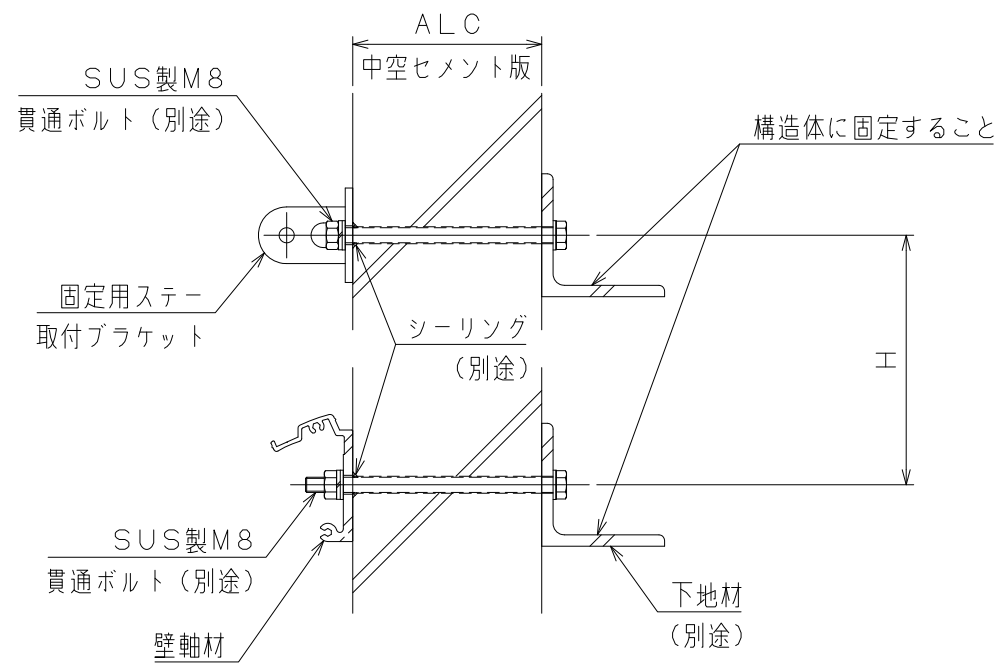
W 巾	A	B	C	穴个数
1000	1006	2	168	3
1200	1206	3	100.5	4
1400	1406	4	33	5
1600	1606	4	133	5
1800	1806	5	65.5	6
2000	2006	5	165.5	6
2400	2406	7	30.5	8
2800	2806	8	63	9
3200	3206	9	95.5	10
3600	3606	10	128	11
4000	4006	11	160.5	12



尺度 (scale) 1:3 1:15	図面名称 平面図・正面図・見上げ図・右側面図・断面詳細図	工事名称	日付 (date) '08.10.02	頁 (page)
	品目名称 アルミ製底 RSバイザー RS-F T型 (ステー無)		図面番号 (drawing number)	



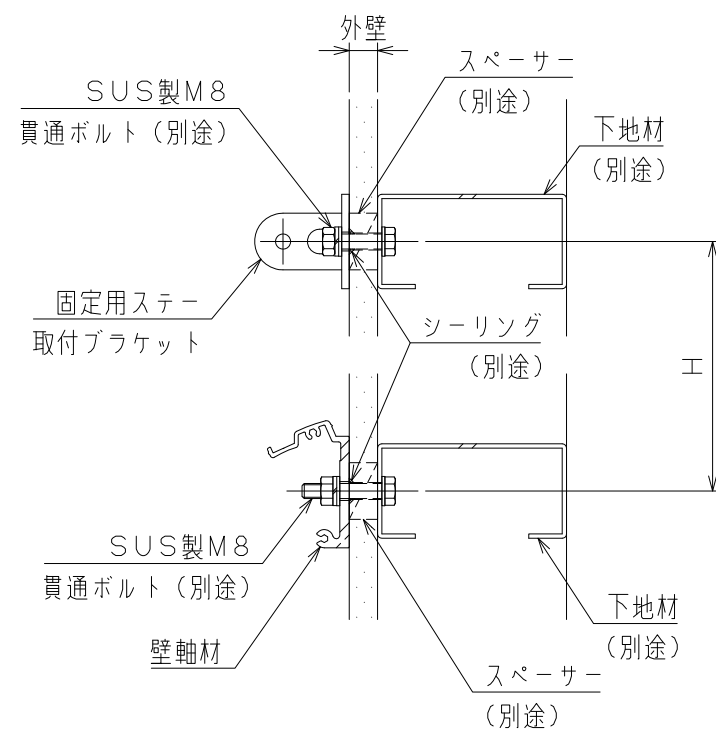
コンクリート下地に取付ける場合



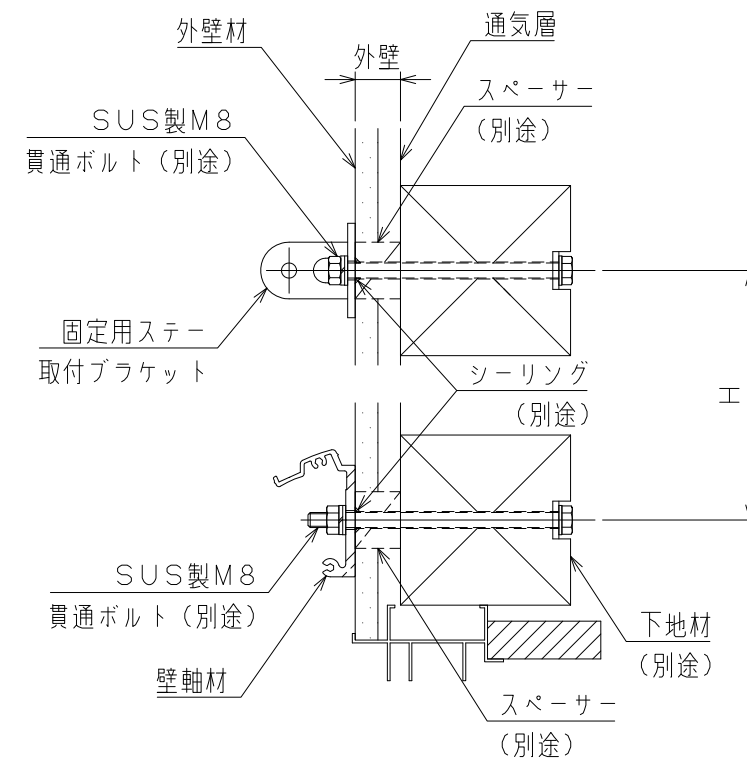
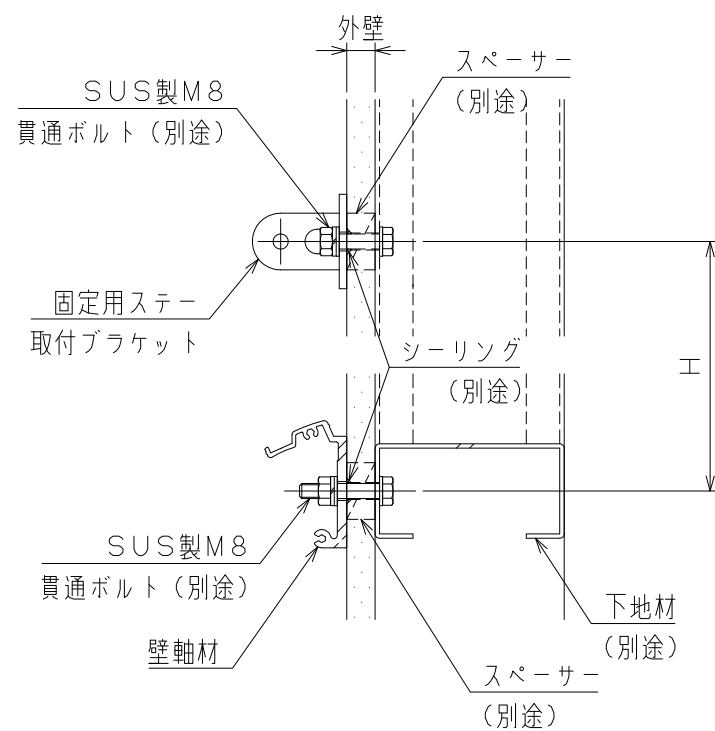
ALC・中空セメント版に取付ける場合

Hの値

底出幅D	型 式	
	RS-F/FT	RS-FB
1000以下	222	222
1000超え	400	400



鉄骨下地に取付ける場合



木下地に取付ける場合

※注意！ 基本条件における一例です。施工の際は必ず現場条件に合わせ、十分な強度を確保した下地材・アンカーを御使用ください。  
外壁に直接負荷が掛からないようスペーサーを入れてください。

尺度 (scale) 1 : 4	図面名称 RS-F・FB・P・C・CF型 壁際納まり参考図	工事名称	日付 (date) 2014-07-28	頁 (page)
	品目名称 断面図		図面番号 (drawing number) 80-000726-00-3B	